

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)



Contents

- 特集1 活躍する学生・生徒たち … 2～3
- 特集2 小学部の取り組み
充実した英語教育を目指して … 4
- 特集3 ぴよにわ子ども食堂活動報告 … 5
- 特集4 現地での地域連携活動実施報告 … 6～7
- 学園各部報告 … 8～11
- 同窓会だより／マーガレット募金 … 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

SAVINGS NEWS

特集1

活躍する学生・生徒たち

〔生活デザイン学科〕

生活デザイン学科の学生2名が「第18回ACジャパン広告学生賞」において優秀賞を受賞しました

今年もコロナ禍の中、全国の美術大学や一般大学から、過去2番目となる多数の作品が集まりました。その中から一次・二次・最終選考と審議が繰り返され、厳正な選考の結果、生活デザイン学科4年生の櫻井三慧さんと仲尾菜希さんが優秀賞を受賞し、昨年の審査員特別賞と優秀賞の受賞に続いて、3年連続で本学の学生がダブルで受賞しました。

この「ACジャパン広告学生賞」は、若い世代が広告制作を通して公共広告への理解を深め、「公」への意識を育むことを目的に2005年に設立されました。学生ならではの視点や発想が選考のポイントとなっているので、櫻井さんの優秀賞の作品はSOSをテーマに加害者に知られないよう、第三者に危険を知らせる方法



櫻井三慧さんの優秀賞作品



仲尾菜希さんの優秀賞作品

を櫻井さんは自ら被写体となり写真で表現、仲尾さんは自身の手がけたイラストレーションで視覚伝達(表現)をしています。どちらも公共広告として高く評価され優秀賞を受賞しました。(生活デザイン学科・堀内)

〔復興支援学生ボランティア委員会〕

大船渡市市政施行70周年記念式典に参加し感謝状が贈呈されました

10月13日(木)に岩手県大船渡市で行われた大船渡市市政施行70周年記念式典に出席しました。式典では、私たち復興支援学生ボランティア委員会が、東日本大震災によって被害を受けた大船渡市の復興復興に貢献したとして、感謝状をいただきました。

本学では、2011年6月に初めて大船渡市での炊き出しを行い、2012年に被災地支援学生ボランティア委員会(後に復興支援学生ボランティア委員会に名称変更)が発足。以降、継続的に大船渡市の復興支援を行ってきました。

今回の式典では、10年続いてきたこの委員会の一員として、数ある団体の中から壇上で感謝状をいただくことができ、改めて委員会の先輩方の偉大さを感じるとともに、現在も復興支援を続けていくことを評価していただき、とても嬉しかったです。今後も「震災を風化させない」「大船渡の方々への心の復興を支援したい」などといった私たち委員会メンバーの想いを繋いでいきたいと、改めて強く感じさせられる式典でした。

(復興支援学生ボランティア委員会)

健康栄養学科4年・河合由菜



感謝状が贈呈される様子

〔中学部・高等部〕

**中学部・高等部バトントワリング部が全国大会で金賞受賞
中学部バスケットボール部が全国U15バスケットボール選手権大会全国大会で第3位入賞**

バトントワリング部が、12月10日(土)に開催された第50回バトントワリング全国大会に出場し、中学部・高等部共に見事金賞を受賞しました。

また、翌12月11日(日)に開催されたジャパンカップ日本選手権においても、中学校の部で見事優勝、高等学校の部では第3位に入賞しました。今年度からスタートした新しい大会で、全国大会の翌日というタイトなスケジュールでしたが、大きなフロアで演技できることのよさを感じました。

中学部バスケットボール部が、神奈川県代表として、1月4日(水)から開催された第3回全国U15バスケットボール選手権大会(Jr.ウィンターカップ2022・2023)に出場、これまで果たせなかった全国大会ベスト8の壁を打ち破り、見事第3位に入賞しました。

また、1月23日(月)および26日(木)に輝かしい成績を収めた選手たちが、風間理事長を表敬訪問しました。風間理事長からは、選手たちの活躍を労うとともに激励を受けました。(中間)



中学部バスケットボール部



中学部バトントワリング部



高等部バトントワリング部

3

特集2

小学部の取り組み充実した英語教育を目指して

小学部では、「英語を使ってコミュニケーションできる子、生き生きと表現できる子」を目指して英語教育を展開しています。今回紹介する二つの活動は、その中でも子どもたちの学習成果を発揮する場として計画された活動です。

English Performance Festival

小学部では、12月22日(木)に全校による「English Performance Festival」が行われました。今年度は、相模女子大学グリーンホールが改修工事中ということで、本学3号館314教室で、また感染対策を講じて、1組2組3組のたてわり6学年で3部に分けて開催されました。

「Festival」みんなで楽しむお祭り」です。2年生から6年生は、11月にそれぞれの英語の授業で「English Performance Festival」として保護者の方をお招きして全員が英語で発表をしました。この日の全校「Festival



プレゼンテーションも工夫する子どもたち

は1年生による詩「Brown Bear」の群読から始まりました。上級生も1年生の時に音読した詩で懐かしく聴いていました。前半のPerformance Timeでは、各学年の希望者の児童が学習の成果を発表しました。2年生は、テキストで学んだセンテンスを組み合わせて作った「オリジナルスキット」を、3年生は、国語で学習した「スミミ」のお話のお気に入りの場面の朗読と紹介を、4年生は、社会で学習した都道府県紹介を、5年生はプログラミングの授業で挑戦した「Pepper Project」の発表を、そして6年生は「My Dream」自分の将来の夢についてスピーチしました。皆、生き生きとしたPerformanceを披露して、大きな拍手をもらいました。後半のEnjoy Timeでは、イングリッシュリーダーの児童の企画進行によるクイズやクリスマスソングの歌を楽しみました。(小勝)



司会進行を進めるイングリッシュ・リーダー

小学部4年生、東京英語村 (Tokyo Global Gateway) <

1月10日(火)、小学部4年生72人は、東京英語村(Tokyo Global Gateway)にて、英語の校外学習を実施いたしました。

オープニング・セレモニーから、子供たちの元気な英語の挨拶が飛び交い、エージェント(外国人講師)と



英語を使って注文をする子どもたち



飛行機の中を想定して、英語を使う

ジェスチャーを交えて笑顔いっぱい、イングリッシュユツアのスタートです。いつもの日常から離れ、海外をイメージして作られた街並みで初体験の環境のなか、思い切り授業で習得した表現を使って、色々な国籍の講師の先生とグループ活動を楽しみました。アトラクションエリアでは、本物のANAのシートに座り、新聞やドリンクを注文。アクティブイマジジョンエリアでは、オリジナルダンスを創作したり、コマ送り動画を作ったり、普段体験できない活動を英語というツールを用いて一人一人が堪能しました。将来、グローバル社会で活躍するための第一歩として、4年生は「英語で自分を表現できる子」という目標を掲げ、この貴重な体験を宝物に、3学期を迎えました。可能性の塊である子供たちが、生活習慣・文化・価値観などの多様性や人権を尊重しながら、世界を飛び回り活躍してくれる10年後を、私たち教員は心から待ち遠しく思っております。(吉田)

特集3

2022年度

短期大学部食物栄養学科 栄養指導ゼミナール ぴよにわ子ども食堂活動報告

ゼミナールで子ども食堂を初めて運営し、参加してくれた親子から「おいしかった」という声を直接聞いて、みなが楽しく食べてくれることの喜びを学びました。献立づくりは、子どもたちの気持ちになって考えることが大切だと気づきました。特に子どもたちに野菜を食べてもらう工夫は大変でしたが、みなで話し合いをして共有することが大切だとわかりました。



春学期のゼミナール集合写真

栄養士をめざす短期大学部食物栄養学科の栄養指導ゼミナール履修学生たちが、定期的にユニコムプラザさがみはらにて、SDGsの「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」を目標に、地域のボランティア団体「であいの和」とコラボレーションして、どなたでも参加できる「ぴよにわ子ども食堂」を開催しています。

JA相模原市様から相模原市産の旬の野菜を配送支援いただき、食育として地産地消の食材を提供しています。

「ぴよにわ」とは、ヒヨコ(子どもたち)のぴよぴよと、ニワトリ(おとなたち)が家の庭で楽しく集うことをイメージし、学生たちが名付けました。

学生たちは、料理の提供の他に、参加者の方々に食事の感想を聞いたり、子どもたちに食育クイズを出したりと積極的にコミュニケーションをはかるなどし、地域のみなさんが夕食のひとときを一緒に楽しく過ごせるステキな食堂をめざしています。

●5月17日(火)

第1回テーマ…子どもの日を楽しもう！

「鯉のぼりオムライス」や春キャベツの「コンソメスープ」、新じゃがの「枝豆のポテトサラダ」など学生たちが考案したメニューは子ども達に人気でした。

デザートは「フルーツポンチ」は牛乳寒天を入れて華やかに仕上がりました。調理のコツはボランティアの方々の実演から学び、学生たちはとても充実した活動ができました。

また、「子どもの日」にちなんで、メッセージ入りのお菓子を子どもたちにプレゼントしました。



薄焼き卵のコツを学ぶ学生たち



カワイイ「鯉のぼりオムライス」

●6月14日(火)

第2回テーマ…野菜をいっぱい食べよう

緑色が鮮やかな「えだまめごはん」「ホクホクのじゃがいもと人参の「肉じゃが」、ポン酢の酸味がさわやかな「なすのあげびたし」、手まり形のお麴が可愛い「すまし汁」、そして季節の花にちなんだ「あじさいゼリー」を提供しました。

調理中、様々なハプニングはありましたがボランティアの方々には教えていただき、学生たちは充実した学びができました。

これまで子ども用の1/2食だった幼児のお母さまからは「今回は大人並みに1食を初めて食べられました」という嬉しいお知らせをいただき、学生たちはとても喜んでいました。



参加希望が多く抽選になりました



梅雨の季節のさわやかメニュー

●7月19日(火)

第3回テーマ…七夕メニュー・夏野菜をおいしく食べよう！

野菜がゴロゴロと入った「七夕カレー」はチーズを星形にくり抜いて可愛く盛り付けました。さっぱりとした味つけの「春雨サラダ」やフルーツヨーグルトも提供しました。調理作業では野菜をたくさん切りましたがボランティアの方々にご指導いただき、学生たちは手際よく作業を進めていました。

野菜が苦手な子どもたちでも大好物のカレーなので残すことなく食べてくれました。なすを口に入れて噛みしめている子どもがいまいた。お母さんが「家では本当に野菜を食べないのにここでは食べてくれるんですよ」と嬉しそうに教えてくださいました。



「若い人と活動できて楽しいわ」



夏野菜たっぷりの「七夕カレー」

●10月28日(金)

第4回テーマ…今年のハロウィンにぴよにわ子ども食堂で！

相模原市産の甘いニンジンがたっぷり入った「コンソメスープ」や「にんじんツナサラダ」は子供たちに大人気でした。バターが香る「コーンご飯」はエスニックな味が自慢の「とり肉のカレー」は「食べやすい料理で、子どもが残さず食べてくれました」とお母さんから嬉しい声をいただきました。「ハロウィンかぼちゃクッキー」は柔らかく仕上がっていました。また、ハロウィンらしいメニューが提供されました。また、学生たちは「ネコ」のカチューシャをつけ、仮装し、子どもたちにお菓子をプレゼントしました。「ネコからお菓子をもらった」と笑顔で喜ぶ子どもたちとても嬉しそうでした。



初参加の親子もいらしました



ハロウィンにちなんだ洋食メニュー

●11月25日(金)

第5回テーマ…秋の旬の食材を楽しもう！

「ご飯」「豚汁」「鮭のホイル焼き」「ブロッコリーの和え物」「りんごのフレンチトースト」を提供しました。鮭のホイル焼きはアルミホイルで包む作業が大変でしたが、地域のボランティアの方々の手際の良さに助けをいただきました。ブロッコリーと塩こぶの和え物は子どもたちも食べやすかったようで、「塩こぶは意外な組合せでおいしいです」とお母さん方にも好評でした。子どもたちに野菜をたくさん食べてもらいたいのと、豚汁は驚くほど具たくさんでしたが残さず食べてくれました。学生が試作を繰り返したり、このフレンチトーストも人気でした。



「野菜を切る速さは負けないわよ」



秋の旬の食材たっぷりのメニュー

特集4

現地での地域連携活動実施報告

〔体験活動〕 福島県本宮市にて 稲刈り作業をしました

10月8日(土)、10月9日(日)に福島県本宮市を訪問し、学内公募で集まった学生7名が稲刈り作業を行いました。初日は本宮市役所内で「放射能の説明と本宮市の現状と検査体制」について農政課職員の方より講義をいただき、実際に本宮市役所付近の放射線量の測定を体験しました。結果は基準値を下回り、市内の安全性と本宮市産の食の安全性を確認しました。その後、プリンス・ウィリアムズ・パークを散策し、農家民宿に宿泊しました。

2日目は本宮高校の生徒とともに稲刈りと脱穀の作業を体験しました。最後にマーガレットファームという本学の畑でネギを収穫し、活動を終了しました。

参加した学生からは「食べ物に感謝の気持ちを持つようになった」、「実際に福島県産の商品を購入してメニューを作りたい」などの声も聞かれ、満足度が非常に高い活動となりました。



放射能検査体制について学ぶ様子



脱穀を行う様子

〔海外に子ども用車椅子を届けよう！プロジェクト〕 3カ月ぶりに 定例会を行いました

海外に子ども用車椅子を届けよう！プロジェクトは毎月第二、第四日曜日に定例会を行っています。

8月、9月は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となっていました。10月9日(日)に約3ヶ月ぶりに定例会を行うことができました。

10月は通常通り2回行うことができ、NPO法人海外に子ども用車椅子を送る会の方としてベトナムチームの方と効率よく作業を進め、合計で梱包作業17台、清掃作業17台を完了することができました。

清掃作業は車椅子を一度分解してから清掃を行うため、より細かい箇所まで作業を行うことができます。

海外で必要としている子供たちによりきれいな車椅子を届けられるよう、これからも活動を続けていきます。



海外に子ども用車椅子を届けよう！プロジェクトの学生



清掃作業の様子

〔もとみやSMILEプロジェクト〕 本宮真結女神輿に 参加しました

10月22日(土)～10月23日(日)の2日間、「もとみやSMILEプロジェクト」のメンバー7名が福島県本宮市を訪問しました。今回は、プロジェクトメンバーのうち1年生のみで訪問しましたが、貴重な本宮真結女神輿にも参加させていただき、充実した活動となりました。

1日目は本宮市の秋祭りである本宮真結女神輿に参加し、神輿を背負う一員となりました。4年ぶりの開催だったため、出発前の対面式から涙を浮かべる地元の方もしゃいました。学生からは、「本宮市の方々にとても思い入れのある行事であることを認識し、胸が熱くなった。」という感想が述べられました。

2日目は本宮市にあるマーガレットファームにて、里芋とさつま芋掘りを行いました。本宮市の方の丁寧なご指導のもと、大きな芋を土の中から次々と掘り出しました。天候にも恵まれ、空気の綺麗な場所でのびのびと自然に触れることで、日常の疲れを癒すことができました。



神輿を担ぎ、市内を歩く様子



マーガレットファームでの活動の様子

〔佐渡プロジェクト〕 佐渡市立高千中学校の生徒と オンラインで交流しました

10月29日(土)に佐渡市立高千中学校の生徒による文弥人形を、WEB会議システム「Zoom」で鑑賞しました。発表していただいた演目は、「ひらかな盛衰記」という演目です。主人公は鎌倉時代に木曾義仲に仕えていた巴御前で、木曾義仲が源頼朝に敗れた際に追つてきた鎌倉方の重臣と戦い最後には捕らわれの身になるという内容です。

まず初めに高千中学校の生徒さんから、発表するまでの準備の様子や意気込みについてまとめたビデオを見せていただきました。今回参加したメンバーからは、「クオリティがとても高く、プロが演じているようだった。」や「初めて中学生との交流が出来てよかった。」もつと交流して力になりたいと思った。」との感想がありました。



文弥人形を鑑賞する様子

「復興支援学生ボランティア委員会」 岩手県大船渡市を 訪問しました

復興支援学生ボランティア委員会は、10月29日(土)・30日(日)に一泊二日で岩手県大船渡市を訪問しました。昨年度の大船渡ビジネスプランコンテストをきっかけに始まったYouTubeで「大船渡」の撮影をするこ

とを目的としました。
今回は、「地元の方と繋がりをもち、生の声を聞く」をテーマに活動を行い、現地の駅長さんや、地域おこし協力隊の方へのインタビュー、地元婦人会の方



地元女性部との郷土料理作り

大船渡市魚市場を視察

との郷土料理作りの体験をさせていただきました。今回の活動を通して、新たな目線での支援の在り方や、大船渡の魅力

を新たに発掘することが出来たと感じています。また、過去10年に渡って活動を支援してくださった大船渡市長へ感謝状を贈呈させていただきました。

「歴史マッププロジェクト」 相生祭で 「サガジョ歴史ツアー」を 開催しました

創立125周年を迎えるに際し、本学と地域との繋がりを深めたいと考えた学生により、2022年4月、正課であるメディア情報学科塚田ゼミ生13名と、正課外である「Sagamichallengeプログラム」内の「サガジョ盛り上げ隊プロジェクト」の共同による学生団体「歴史マッププロジェクト」が発足しました。

当プロジェクトでは、本学に在る歴史的遺構を纏めた「サガジョ歴史マップ」と、そのデジタル版の二次元コードを掲載した「サガジョ歴史マップカード」を制作し、11月3日(木祝)、4日(金)に開催された相生祭にてお披露目しました。また、プロジェクト学生がツアーコンダクターとなり、帝国女子専門学校の時代をイメージした女学生衣装で構内の遺構を案内する「サガジョ歴史ツアー」も開催し、60名を超える方々にご参加いただきました。

ツアーに参加された方からは、「OGですが、大学の歴史を知れて良かったです!」などの感想をいただきました。



学生が制作した「サガジョ歴史マップ」と「サガジョ歴史マップカード」



「サガジョ歴史ツアー」出発前の様子

「海外に子ども用車椅子を 届けよう!プロジェクト」 日光国立公園 マウンテンランニング大会の 運営サポートに参加しました

11月12日(土)・11月13日(日)、当プロジェクトと協力関係にある日光市観光協会の協力で、日光国立公園マウンテンランニングの大会運営のサポートに参加しました。

開催場所は栃木県日光国立公園で、世界遺産にも登録された神社仏閣をはじめとする数々の歴史的建造物とそれを取り巻く自然景観との見事な融合を見ることができ

ます。
午前中は選手へ荷物置き場への誘導や荷物を入れる袋の配布、袋の外側にシールを貼るお手伝いをし、午後からは選手と一般人が衝突を防ぐための呼びかけやゴールした選手に完走証受付までの誘導、完走証の作成・配布をしました。

今回は3年ぶりのサポーターとしての参加でしたが、これからお手伝いが出来ればと思っています。



日光国立公園
マウンテンランニング
大会の様子



海外に子ども用
車椅子を届けよう!
プロジェクトの学生

「おつきりんピック宣伝部」 群馬県富岡市で 「おつきりんピック」に 参加しました

11月18日(金)・11月20日(日)の3日間、「おつきりんピック宣伝部」の学生6名が群馬県富岡市を訪問し、「おつきりんピック」に参加しました。

富岡市と本学は2015年から協働しており、農村ならではの体験活動を行ってきました。また、郷土料理「おつきりこみ」を全国に普及するため「おつきりんピック」に「全国ご当地うどんサミット」「相生祭」に参加した実績があります。

18日(金)は長ねぎや里芋など、地元で採れた新鮮な食材を使用しおつきりこみの仕込みを行いました。

19日(土)は、NPO法人ふれあいパーク岡成の方々と合流し、創立9周年を記念した式典に参加しました。その後、来場者の方々に学生がメニューを考案して作った「中華風おつきりこみ」をふるまいました。「こま油が効いておいしかった」「かに風味がまばこも意外に合う」とお褒めのお言葉をいただきました。



中華風おつきりこみ



おつきりこみの仕込みの様子

20日(日)は、ふれあいパーク岡成の事務所にて前日の反省会と今後の活動に関する会議を行いました。その後、岡製糸場や周辺の様子を見学しました。

(連携教育
推進課)

学園各部 報告

学園

「第53回相生祭」3年振り対面開催のプレスリリースが、大学プレスセンターのニュース・アクセスランキングで1位を獲得しました

「第53回相生祭」3年振り対面開催のプレスリリースが、教育情報に特化したプレスリリースを配信する『大学プレスセンター』のニュース・アクセスランキング（2022年9月21日～10月20日）で1位を獲得し、毎日新聞出版が発行する雑誌『サンデー毎日』2022年12月11号に掲載されました。

相生祭は、コロナ禍の2020年度は中止、2021年度はオンラインでの実施となりましたが、今年度は3年振りに対面開催が実現しました。11月3日（木・祝）、4日（金）に開催され、2日間で開催約19,000名以上の方々にご来場いただきました。

（総務課）



2022年度 相生祭ポスター

大学院・大学・短期大学部

「Kid's Lady's 防火衣」のファッションショーと試着体験会を開催しました

生活デザイン学科の学生6名が相模原市消防局と公益社団法人相模原市防災協会とのコラボレーションにより製作した「デザイン防火衣」を11月3日（木・祝）、4日（金）に開催された相生祭でお披露目しました。

ファッションショーでは、製作した学生・キッズ・現役の消防士がモデルとして出演しました。

関係団体の代表者の皆様（相模原市森副市長、菅谷南区長、小松消防局長、公益社団法人相模原市防災協会大谷理事長、株式会社関東小池金原社長、本学田畑学長など）もご来場下さり、ご講評やご感想をいただきました。

試着体験は、従来はお子様を中心ですが、今回は保護者の方、10～20代の方、中高年の方など、性別や年齢に関係なく多くの皆様に参加して下さい大好評でした。（生活デザイン学科・角田）



ファッションショーの様子



ご講評やご感想をいただきました

自宅でクリスマスをお祝いしたい子どもたちへ本を贈るために、学生ボランティアが地域の人びと、書店、病院や施設等の架け橋となっています

サンタプロジェクト・さがみはらでは、さまざまな事情からクリスマスをお祝いできない子どもたちへ、地域での施設で過ごす子どもたちへ向けて、本を贈るプロジェクトを行っています。誰かを想う気持ちが見える形にするこのプロジェクトの真ん中には子どもたちが、そして、贈りものをする市民サンの皆さまと書店、各施設等とのあいだには本学のボランティアがいます。

今年は35名ほどの学生が集まり、クリスマスカード作り、病院や施設とのやりとり、協力書店への依頼など、いくつかのチームで分担しながら作業を進めました。くまざわ書店相模大野店、ブックファースト・ポーノ相模大野店、三省堂海老名店、ACADEMIAくまざわ書店アリオ橋本店にご協力いただき、この

活動に賛同してくださった市民サンの皆さまが、さがみはらの贈り先の施設で過ごすその子へ選んでくださった本は100冊になりました。それらの贈りものはカードとともに、子どもたちのもとへ無事に届けられました。これを各所の皆さまへの感謝とともに報告します。

次年度は、全国の本プロジェクトの仲間と毎夏に行っているサンタサミットの当番校としての活動も予定されているほか、贈り先を増やすことについての検討も進められています。今後の動向にもご注目いただけましたら幸いです。

（人間心理学科・村松）



コロナ禍のため、病院へは郵送での
お届けとなりました。



学生が作った可愛いクリスマスカードに、市民サンタさんからメッセージが送られます



中学部・高等部

高等部における「総合的な探究の時間」

学習指導要領の改訂により2022年度から「総合的な探究の時間」が高校で始まりました。社会で求められる力「生きる力」の育成を目指し取り組んでいる内容を紹介します。

高校1年生では「自分の興味・関心に向けて」をテーマにしています。「好きな食べ物」「未来のために10万円使えるとしたら何をする?」など様々な質問を通して自分と向き合っています。出てきたキーワードに対し視点を変えて見ることで、新たな気づきが生まれたようです。

一人一人が興味関心を探った後、グループに分かれ、課題の設定・情報収集・分析・資料の作成を行いました。調べるだけではなく「探究」活動に、生徒たちは試行錯誤しながらスライドにまとめ、クラスで発表。発表を受け、互いに良い点やアドバイスを送りあい、これからブラッシュアップをしていきます。

3学期には知見を得るための講演会を予定。日々探究しながら社会で活躍されている方のお話を聞いて、今後につなげてほしいと期待しています。



いよいよプレゼント!

高校2年生からは4つのコースに分かれます(2023年度から実施)。「社会の課題に目を向ける」をテーマに各コースの特徴を活かした探究的な活動に取り組んでいきます。

現在は試行錯誤しながらの段階ですが、相模女子大学高等部らしい「総合的な探究の時間」を確立できるよう取り組んでいきます。

(三箇山)



Google Meetで各教室をつなぎ、クラス代表者が発表

中学2・3年生心肺蘇生法講習会人命救助の一助を担える女性の育成を目指して

11月11日(金) 国士館大学より講師をお招きし、午前中学2年生・午後中学3年生が心肺蘇生法講習会を受講しました。生徒2人に訓練用人形1体をご用意いただき実技中心の充実した3時間を過ごしました。

人間の脳は2分以内に心肺蘇生が開始された場合の救命率は90%程度、



国士館大学防災救急救助総合研究所の講師の先生と学生さん

4分では50%、5分では25%程度。心肺停止の早期判断と救急要請、AED手配と胸骨圧迫の救命活動により蘇生率が上がることを学びました。

生徒たちは医療従事者でなくても目の前の人を助けたいという勇気があればバイスタンダーとしてできる救助の技術を習得し、努力の結晶である修了証を手に入れました。「家に修了証を持ち帰ったら、もし倒れたらやってねと言われたので家族の役に立てるのではないかと思った。」「誰かが倒れたら迷わず、自信をもって助けよう。」と、「高潔善美」の建学の精神を確かに継承してくれています。

(春本)



AEDの装着



呼吸の確認



胸骨圧迫

中学部書き初め

1月11日(水)、中学部生徒全員参加の「書き初め」が行われました。年の初めに中学部学校行事として「書き初め」を行うのは、48回を数えます。昨年度同様、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から各教室での実施となりましたが、墨の香りが漂う中、それぞれが縦70cm横175cmの画仙紙に各学年の課題を書き上げました。12月から国語や表現の授業で練習を重ねましたが、時間は25分、清書用紙はわずか2枚しかありません。書き上げた2枚の作品のうち、自分で良い方を一つ選びました。

緊張と静寂の中、一人一人が集中して一気に仕上げるこの「書き初め」は、気持ちを新たに、1年のスタートの目標をしっかりとつてほしいという願いがあります。そして、日本の伝統文化に触れることができる貴重な時間です。ここで選ばれた受賞作品は表装をし、後日校舎内に展示されます。

(清水)



集中して清書用紙に向かいます



作品披露

小学部

体験を通して学ぶ 社会科見学

小学部では、秋に各学年で社会科見学に出かけています。今回は、その中からいくつかを紹介します。

公園で働く人について知ろう

(1年生)

1年生は相模原市立麻溝公園の見学です。子どもたちは、施設内のどこをどの順番でまわるか、どんなことをするかといったことを事前に班ごとに計画して臨みました。

動物広場では、モルモットやひつじ、やぎ、うさぎとのふれあいをしました。学校でモルモットやヤギのバナナにエサをあげたりしている子どもたちです。やさしくなったり、エサをあげたりしてふれあいを楽しみました。

子ども広場やフィールドアスレチックでは、全力で遊びに没頭する姿も見られました。また、雲一つない晴天だったので、グリーンタワーからは、景色が素晴らしくラッキーでした。

午後は、公園の管理事務所の方に公



アスレチックを楽しむ1年生

園のお仕事についてのお話を伺いました。気持ち切り替え、お話を聞き、しっかりとメモをとることができました。どれくらいの方が働いているのか、どのように掃除をしているのか、お花の管理はどうしているのかなど、たくさん質問にたくさん答えてくださいました。

学校だけでなく、自分たちの生活を

支えてくださる方がいるということを今回の見学を通して学ぶことができました。



公園で働く人からしっかり学びました

森に入って森の自然と役割について学ぶ (4年生)

4年生は森林教室に出かけました。場所は高尾の日影沢キャンプ場。森林の中をガイドの方に説明していただきながら歩きます。事前に、学校で天然林と人工林があり、それぞれの役割があることを学習していましたが、実際に森に入ってみると、違いは歴然。松や杉、ヒノキなどの人工林がまっすぐに空に向かって伸び、きれいに揃って植えられています。それに対して、天然林は木が曲がっていたり、大きさまや太さも様々。子どもたちは自分たちの目で確かめながら見学しました。

森の中には、普段見ることのできない植物がたくさん。高尾には1,300種以上の植物、5,000種以上の昆虫が生息しているそうです。森の中の虫やサワガニ、植物に触れたり、おいを嗅いだりと五感を使って、2時間たっぷり自然を楽しみました。

午後は、2グループに分けて森林学

習と丸太切り体験です。

森林学習では、スライドを使い、森林の働きや森林官の仕事などについて学びました。子どもたちの質問がとて

も素晴らしく、特に「これからの高尾山をどうしていきたいですか?」といった働く方の気持ちに目を向けた質問もできました。



サワガニ発見!



とても楽しかったガイドさんのお話

横浜「はじめて物語」 (6年生)

6年生は、横浜に社会科見学へ出かけます。横浜は、江戸末期から明治にかけて、開国の中心地であり、文明開化が始まった場所です。6年生は、この社会科見学を「横浜はじめて物語」と名付けて毎年行っています。鉄道、電話、アイスクリーム、ガス灯...それぞれがどのように横浜に伝わり、広まったかを調べてみると、そこには海外との繋がりがや新しいものを取り入れようとした先人の努力があります。その横浜の「はじめて」や、海外との繋がりを見つけることを目標として、ガイドさんの案内のもと少人数に分かれて、見学しました。

横浜公園や日本大通りを作ったブラントンの像を背に、吉田橋や馬車道などを歩いていきました。途中には、アイスクリーム発祥の地や、ガス灯を見て回り、当時の苦労や工夫を聞いて、子どもたちは驚いていました。



横浜の街は見どころいっぱい

幼稚園では、12月13日(火)、12月15日(木)、12月16日(金)の3日間に分けてクリスマス会が行われました。
数日前からサンタさんへのお手紙ボックスがエントランスに設置され、期待に満ちた笑顔でサンタさんに質問やお願い事を書き投函する子どもたちの姿がありました。また、エントランスの小さなクリスマスツリーを保育者と一緒に飾り付けたり、日々の遊びの中でクリスマスの製作を行う子どもがいたり、クリスマス会までの期間を楽しみながら過ごしました。

クリスマス会

認定こども園 幼稚園



横浜の昔ながらの建物をバックに記念撮影

また、横浜に古くから残る建造物についてもお話を聞くことができました。横浜には、当時のものを大切に残している建造物がたくさんあります。それらの建物が現在どのように活用されているのかを知ったり、実際に入ってみたりしながら、約3時間の見学を楽しみました。
(澄井)



5歳児さくら組クリスマス会



0歳児ひまわり組クリスマス会

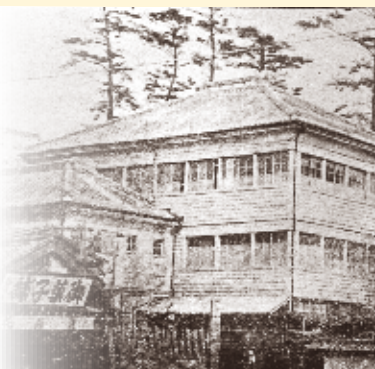
幼児クラスは、キャンドルとクリスマスツリーの明かりが灯るホールでサンタさんとの時間を楽しみました。サンタさんの登場に胸を躍らせて喜ぶ子どもたち。英語で会話をするサンタさんに興味津々の子どもたちにとって、クリスマス会は幻想的な世界観を味わう貴重な体験となりました。乳児クラス・もも組は、各保育室にサンタさんが登場しました。トナカイの鈴の音が外から聞こえてくると目を輝かせてサンタさんの姿を探し、実際に見るサンタさんの姿に少し驚きも感じながら楽しんだ素敵な機会となりました。
(梅安)

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



125th Anniversary
since 1900

2025年、相模女子大学は創立125周年を迎えます。



西澤之助と『女鑑』

本学の母体となる日本女学校創立者の西澤之助は、本学設立前から国光社という出版会社を営んでいて、教科書や雑誌を発行していました。国光社が発行していた『女鑑』は女子教育に関する雑誌として、明治24年から明治42年までの長い間、発刊されていた記録が残っています。広告のページには、宝石や化粧品、呉服店などがあり、高級雑誌であったことがわかります。執筆者としては、跡見花蹊、板垣退助、大隈重信、勝海舟、幸田露伴、渋沢栄一、津田梅子、成瀬仁蔵、新渡戸稲造など当時の著名人がおり、明治から昭和初期に活躍した竹久夢二の口絵もあります。これらの執筆者からも『女鑑』は、世の中から注目されていた雑誌であったということがわかります。国光社のさまざまな発行物からも西澤之助の女子教育に対する強い意志が感じられ、本学設立へとつながった情熱を感じさせます。本学の附属図書館には、『女鑑』の復刻版が保存されています。



写真：国光社発行『女鑑』



還暦を迎えて

蛸原啓子 茨城県公立小学校 校長
(昭和61年学芸学部国文学科卒)



令和4年度第3学期始業式 学校長式辞

相模女子大学を卒業後の昭和61年4月から、茨城県の教員として勤務し、この3月に定年を迎えます。37年という教員生活も、今となっては、短く感じられます。

「中学校国語」で教員採用試験を受験したはずが、配属されたのは、小学校でした。教育学部出身ではないので、勉強の毎日でした。先輩方の教室を見て掲示物を作ったり、授業の進め方等、いろいろなことを教えていただいたりしながら、毎日をやっとの思いで、過ごしていました。また、同時期に大学の通信課程で小学校教諭の免許を取得しました。忙しくて無我夢中の毎日でしたが、それでも頑張れたのは、未熟な私を「先生!」と呼んで慕ってくれる子ども達の笑顔のお陰です。

毎日勉強の小学校勤務は、3年間だけで、平成元年から27年までは、中学校に勤務しました。30代前半までは、専門の国語だけではなく、社会・音楽・家庭と、免許外の教科も担当しました。また、吹奏楽部の顧問として、コンクールで指揮をするという経験もさせていただきました。「新しいことに挑戦して、学び続ける」ということを、実感した時期です。同時に、この時期は、結婚・2人の息子の子育てと私生活の面でも、忙しく過ごしていました。1日24時間では足りない位で、1日30時間あればいいのに…、と思っていた時期です。慌ただしい毎日を送っていましたが、不思議と仕事を辛いとかやめたいと思ったことは、一度もありません。生徒と過ごす時間、生徒のに向けてくれる笑顔が、私の仕事の原動力となっていたと思います。「生涯一担任」と思

っていた時期です。

そんな私が、お世話になっていた校長先生から、管理職を目指してみないかという言葉をいただきました。そして、平成28年からは、小学校の管理職として勤務させていただいています。

小学校の教頭・校長として勤務する7年間は、教諭時代とは違うものがありました。特に、校長となってからは、「子どもをかわいい」という情熱だけでは、だめだということも感じました。学校経営を任される責任、子どもを育てるのと同時に、教職員をも育てていかなければならないことも痛感しました。管理職として、判断を迫られる時は、孤独だということも味わいました。特に、コロナ禍の現在は、学校行事を始め、校長が判断しなければならないことがたくさんあります。そんな時は教職員の声に耳を傾け、子ども達にとって、「今できる最善なもの」を基準に考えるようにしています。

還暦を迎えた今、学園で友達と共に過ごした日々が、懐かしく思い出されます。ゼミで学んだこと、銀杏並木を歩いたこと、寮生活…。その一つ一つが大切な思い出です。

学園に在籍されている皆さんには、様々な可能性があります。素晴らしい未来があります。自信をもって、前へ突き進んでください。今、友達と過ごす時間は、この後の人生の中で宝物となるはずです。また、今学んでいることは、必ず社会に出て役立つはずです。学びを止めずに、学園生活を謳歌してください。皆さんのご活躍をお祈りしています。

ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。
ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。
今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	令和4年3月末現在	令和4年12月末現在
マーガレット募金額	60,429,773 円	68,121,960 円

マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。

用途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

募金内容

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

お申込方法 (個人の場合)

- ① お振込 (郵便局または銀行窓口)
 - ② 郵送 (現金書留) またはご持参
 - ③ 自動振替での継続
- 詳細につきましては、大学ホームページ (<https://www.sagami-wu.ac.jp/>) をご覧いただくか、下記事務局までお問い合わせください。
- マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp
- その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



学校法人 **相模女子大学**